[**成果情報名**] **生後7ヶ月齢から肥育を行う黒毛和種去勢牛の早期肥育技術**

[**要約**] 黒毛和種去勢牛において、生後 7 ヶ月齢から肥育を行い（生後 24 ヶ月齢出荷）、肥育前期に DG1.0 kg必要な要求量の 60%の TDN を濃厚飼料から摂取するように制限給与すると、試験終了時体重 730 kg、枝肉重量 446.8 kg、上物率 80%の良好な枝肉生産が可能である。

[**キーワード**] 早期肥育、黒毛和種、粗飼料多給、濃厚飼料

[**担当**] 畜産試験場・大家畜科

[**連絡先**] 電話 0957-68-1135、電子メール samplus@pref.nagasaki.lg.jp

[**区分**] 畜産

[**分類**] 指導

[**背景･ねらい**]

本県の黒毛種肥育農家の平均出荷月齢は 30 ヶ月齢前後であるが、肥育期間の長期化による飼料費等の増加および出荷の回転率の低下が農家経営を圧迫している。一方で、東末博等の増体系種雄牛が造成されており、肉質および枝肉重量を落とさずに、肥育期間を短縮し出荷回転率の向上をはかる早期肥育技術を確立する必要がある。

そこで、生後 7 ヶ月齢から生後 24 ヶ月齢までの黒毛和種早期肥育技術および早期肥育における肥育前期の濃厚飼料給与量の検討を行う。

[**成果の内容･特徴**]

１．前期濃厚飼料少給区が前期濃厚飼料多給区に比べ、粗飼料の摂取量は肥育開始から 35 週齢頃まで多い傾向にある（図 1）。

２．生後 7 ヶ月齢から 24 ヶ月齢まで肥育を行うと、１日当たりの増体量は 0.9 kg以上、試験終了時体重 700 kg以上が可能である。（表 2）

３．生後 7 ヶ月齢から 24 ヶ月齢まで肥育を行い、肥育前期に DG1.0 kg必要な要求量の 60%の TDN を濃厚飼料から摂取するように制限給与すると、上物率 80%の良好な枝肉成績である（表 3）。

[**成果の活用面･留意点**]

１．黒毛和種早期肥育における飼養管理体系に活用できる。

[具体的データ]

表1　飼料給与方法

飼料	試験区	前期[1)] 7～12ヶ月齢 (1～24週齢)	後期[2)3)] 13～24ヶ月齢 (25～74週齢)
濃厚飼料	前期濃厚飼料少給区	DG１.0kgに必要なTDN要求量の60%制限給与	自家配合飼料 不断給餌
	前期濃厚飼料多給区	DG１.0kgに必要なTDN要求量の80%制限給与	
粗飼料	前期濃厚飼料少給区 前期濃厚飼料多給区	イタリアン乾草 不断給餌	稲ワラ 不断給餌

1)市販配合肥育前期用飼料：TDN81.3%，CP16.6%.
2)自家配合飼料：TDN83.0%，CP16.8%.
3)ビタミンA製剤を50週齢以降2週間毎に75,000IU/頭投与する.

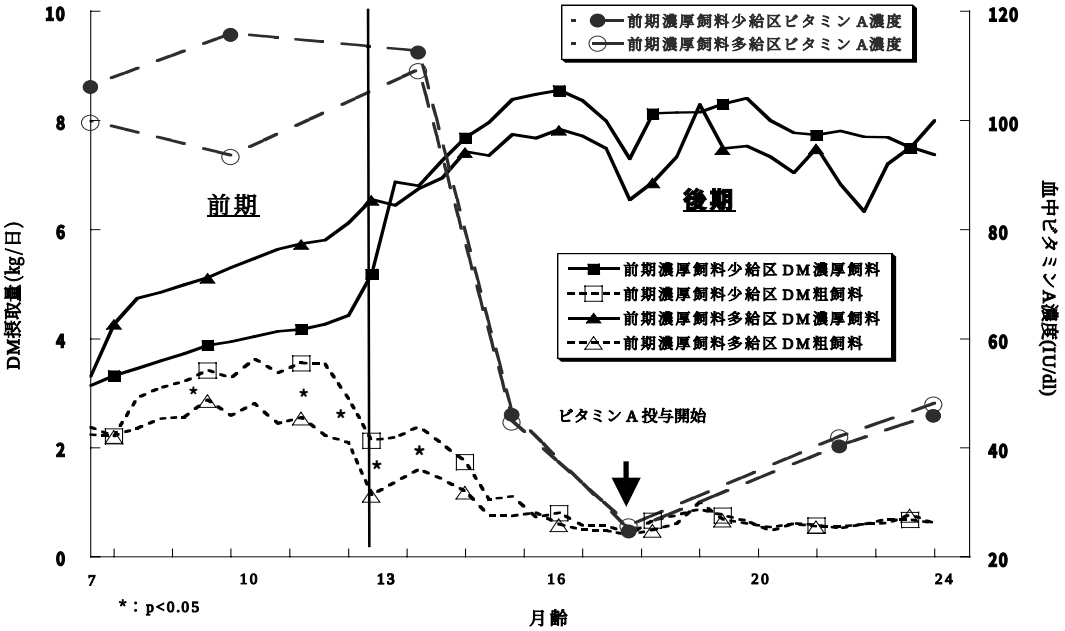

図1　濃厚飼料および粗飼料DM摂取量、血中ビタミンA濃度

表2　体重推移　　単位：kg

試験区	n	試験開始	前期終了時	試験終了時	全期間の増体量/日
前期濃厚飼料少給区	5	233.0	411.0(0.98)	729.4(0.94)	0.94
前期濃厚飼料多給区	5	235.6	432.2(1.08)	713.0(0.83)	0.91

※（　）は肥育期間の１日当たり増体量.

表3　枝肉成績

試験区	n	枝肉重量(kg)	ロース芯面積(cm2)	バラ厚(cm)	皮下脂肪厚(cm)	歩留まり基準値(%)	BMS№	枝肉等級	上物率(%)
前期濃厚飼料少給区	5	446.8	48.6	7.4	3.3	72.2	4.6	A-4：4頭、B-2：1頭	80.0
前期濃厚飼料多給区	5	437.5	44.4	7.6	3.6	71.5	4.0	B-4：1頭、A-3：2頭、B-3：1頭、B-2：1頭	20.0

[その他]

研究課題：肉用牛における早期肥育技術の確立
予算区分：県単
研究期間：2004～2007 年度
研究担当者：川口貴之、橋元大介